令和2年度　江戸川区立葛西第三中学校　学校関係者評価　報告書

学校教育目標	よく学び、よく考える自主性のある中学生 （自発） 心身共に健康で礼儀正しい中学生 （礼儀） 規律と責任を重んじ、よく働く中学生 （責任）	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	1. 生徒が自ら考え、主体的に学び、確かな学力を身につけさせる学校 2. 生徒の自尊感情を育むとともに、何事にも立ち向かっていく強い意志を持たせる学校 3. 生徒一人一人に充実感・満足感を体感させ、何事にも率先して自主的・主体的に活動できる学校 1. 自分で考え、主体的に学び、判断し、自ら率先して行動できる生徒 2. 心身共に健康で何事にも前向きに取り組み、輝いている生徒 3. 豊かな情操を持ち、表現力豊かで社会性のある生徒 1. 共に力を出し合う教師(共育) 2. 共に汗を流す教師(協働) 3. 自らを高める教師(研鑽)
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞教員一人一人が自己研鑽に努め、互いに切磋琢磨しつつ、課題の解決に取り組んだ。教科部会を充実させ、指導内容や指導方法を共有し合い、授業力向上に努めた。生徒の学力向上に向けて授業や補修教室を充実させた。学校行事では生徒の主体性を尊重し、生徒が自ら進んで活動に取り組む教育を行った。部活動では顧問の粘り強い指導を通して、技能の向上だけでなく、心身共に健全な生徒の育成を行った。 ＜課題＞道徳の授業の確実な実施と評価・特別支援教育の充実・ICT機器の有効活用を中心に校内研修を行い、新学習指導要領の全面実施に向けて体制を整える。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・小学校の教員との交流を図る。 ・生徒・児童の交流を図る。	・教科分科会をオンラインで行い、小中の教員同士の交流を図る。 ・2学期以降、小学校を訪問し、挨拶運動を実施する。	C	C	・オンラインでの教科分科会はネット環境の整備が整わず実現できなかった。 ・生徒・児童の交流はコロナ禍のため実施できなかった。	B	小中交流はできなかったが。今年度はコロナのためやむを得ない。	実現可能な交流を検討し、実施に向けて取り組む。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・ICTに関する校内研修を年3回実施する。 ・ICTアシスタントの月2回の訪問を有効に活用し、ICTに関する基本的な技能の習得を図る。	・全教員がICT機器を活用した授業を年間5回実施する。	A	A	・ラインズと綿密な打ち合わせを行い、計画通りに校内研修会を実施できた。 ・ICT機器を活用する教員が増えた。また、活用事例について学校全体で共有した。	A	生徒の授業評価から、分かりやすい授業を行っていることが伝わる。	より効果的なICT機器の活用方法を考察し、教員の授業力の向上を図る。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・巡回指導教員及び巡回指導心理士との連携を強化する。	・校内委員会を月1回開催し、巡回指導教員との情報共有を図るとともに巡回指導心理士からの助言を特別支援教育に生かす。	A	A	・校内委員会での情報交換を基に心理士から有効な助言を受け、個別の指導が充実した。	A	特別新教育は充実している。	さらに特別支援教育の充実を図る。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・昨年度の全国・都学力調査の結果を基に生徒の苦手な内容を把握し、克服に向けて取り組む。	・計画的な小テストの実施により基礎学力の定着を図り、一層の学力向上に向けて支援する。	A	A	・各教科において計画的に小テストや単元テストを実施し、基礎的基本的な事項について学力が定着した。	A	例年通りの取組により、学力の向上が図られていると判断する。	引き続き生徒の苦手分野を克服する取り組みを行う。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	・読書を通して探究心を養い、探究活動を推進する。 ・学校図書館を整備する。	・ビブリオバトルを全学年で実施する。 ・学校図書館司書と連携を取り、月1回図書館の整備を行う。	A	A	・ビブリオバトルの準備や当日の発表を通して生徒が読書に関心を示し、本のあらすじや感想等を自分のことばで表現したり他者の思考を理解したりする力が向上した。 ・学校図書館司書の助言により学校図書館の環境が著しく改善され、一層活用しやすくなった。	A	読書推進がなされている。	探究活動を深めていく。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・補充運動を実施する。 ・部活動の活性化を図る。	・保健体育の授業の始めに補充運動を取り入れる。 ・部活動において種目に応じた体力づくりを行う。	A	A	・通常登校が再開されてからは保健体育の授業では補充運動を計画的に実施した。 ・部活動の活性化は継続できた。	A	生徒は運動に意欲的に取り組んでいる。	連休中などを含め、日常的に家庭等で取り組める運動を推奨していく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・ボランティア活動を計画する。 ・国際理解教育を実施する。	・校内でのボランティア活動を2学期以降計画的に実施する。また、地域のボランティア活動を紹介し、参加を促す。 ・外国人との交流を行う。	C	B	・地域ボランティアや外国人との交流はできなかった。・保健委員会の消毒作業や整美委員会の清掃活動など、コロナへの対応は適宜行われた。	B	地域ボランティアなど従来の取組はできなかったが、校内での奉仕活動はよくやっている。	地域に貢献できる取組を実践していく。
	外国語教育の推進	ALTの効果的な活用と学習意欲の醸成	・ALTを有効に活用した授業を実施する。	・ALTの授業でアクティビティを毎回取り入れ、表現力の向上を図る。	A	A	ALTの授業を通して生徒が英語で話す機会が増え、自信につながった。	A	生徒はALTの授業を楽しみにしている。	ALTを活用した英語教育を一層推進する。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・生徒の主体性を生かした学校行事を実施する。 ・関係諸機関との連携を強化する。	・すべての生徒が意欲的に取り組めるように学校行事の内容を検討するとともに、実施に当たっては仲間外れなどによるいじめが生じないよう十分に配慮する。 ・不登校傾向の生徒にはチルドレンサポートチームとの連携を図り、長期化を防ぐ。	B	B	・生徒の様子観察はこまめに行い、大きな問題は起きなかった。 ・家庭との連携を密に取ってはいたが、不登校生徒に効果的に登校を促すことはできなかった。	A	生徒一人一人の対応を丁寧に行っている。	いじめの撲滅・不登校の改善を目指す。